

23. クラウンブリッジの咬合採得とチェックバイト採得

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従うことができる
- ・ ステップ毎に報告できる
- ・ 必要器材を的確に準備できる
- ・ 患者の咬頭嵌合位が判断できる
- ・ 咬合採得に必要な十分な量の材料を使用できる
- ・ ワックスを軟化し、熱くないよう配慮できる
- ・ 患者の不快感に配慮した診療ができる
- ・ 後片付けが行える

<設定場面>

患者は40代男性。右上6の支台歯形成と精密印象採得、対合歯の概形印象採得が終了した。今から、咬合採得とチェックバイトの採得を行う。

<治療手順>

I. 咬合採得 必要器材：咬合採得用ワックスまたは咬合採得用シリコーン印象材、ワセリン、ユーティリティワックス、ウォーターバス

歯科医師：咬合採得を指示する。

助手：患者を座位の姿勢にする。

衛生士：患者に咬頭嵌合位をとるよう説明し、位置関係を確認しておく。

※ガンタイプの場合

衛生士：口唇・口角にワセリンを塗布しておく。

助手：ノズルを付けた印象材のガンを術者に渡す。

衛生士：咬頭嵌合位を指示し、口角を牽引しながら、上下歯列に印象材を流し込む。

衛生士：印象材の硬化を待つて開口を指示し、バイトレコードを取り出す。

※バイト用ワックスの場合

助手：ウォーターバスで軟化したワックスを術者に手渡す。

衛生士：患者に咬頭嵌合位での咬合を支持し、硬化を待つ。

II. チェックバイト採得

1. 前方チェックバイトの採得 必要器材：チェックバイト用ワックス、アルコールトーチ、冷水入りラバーボール、咬合採得用シリコーン印象材
歯科医師：チェックバイトの採得を指示する。

衛生士：あらかじめ患者の下顎位を切端咬合の状態に誘導してみる。

助手：バイトワックスに前方チェックである旨の矢印と患者氏名を記入し、歯列に相当する部分をアルコールトーチで軟化しておく。

衛生士：患者に開口を促し、上顎の歯列にワックスを圧接してマークをつけ、患者を切端咬合に誘導する。

衛生士：変形に注意しながら、口腔外に取り出し冷水中に入れ、硬化させる。

2. 側方チェックバイトの採得

衛生士：あらかじめ犬歯を含めた側方歯列が離開しない程度に、側方に誘導した咬合状態をとるようにチェックバイトを得る。左右別々に行う。

助手：チェックバイト採得終了後、患者に口角・口唇などの汚れを落としてもらうように手鏡を渡す。

歯科医師：診療終了の指示をする。

助手：次回の処置内容を説明し、来院日時の約束をする。

助手：診療終了後の後片付けを行う。

23. クラウンブリッジの咬合採得とチェックバイト採得

必要器材

- ①咬合採得用ワックスまたは咬合採得用シリコーン印象材
- ②ワセリン
- ③ユーティリティーワックス
- ④ウォーターバス
- ⑤チェックバイト用ワックス
- ⑥アルコールトーチ
- ⑦冷水入りラバーボール